

小児等在宅医療連携拠点事業の平成26年度実施状況及び評価（No.1）

事業項目	事業内容		平成26年度 計画	実 績	評 価
1 小児等の在宅医療が抱える課題の抽出と対応方針の策定	1 在宅医療・訪問看護研究会、療育支援専門部会等の開催		1 県内各分野の有識者会議の開催 ○療育支援専門部会等において小児等在宅医療連携拠点事業に関する進行管理や課題解決に向けた検討を行う。	療育支援専門部会 5/21(水)、7/2(水)、8/6(水)、1/28(水) 開催	
			2 医療分野の各団体代表により構成される会議の開催 ○医師会、看護協会、訪問看護ステーション連絡協議会等の関係団体との連携強化を図りながら事業を推進する。 ○在宅医療・訪問看護研究会メンバーに保健師を新たに追加する	在宅医療・訪問看護研究会 7/3(木)、9/4(木)、1/15(木)、3/5(木)予定 開催	
2 地域の医療・福祉 資源の把握と活用	1 医療、福祉、ピアサポート等の社会資源の把握と「千葉県つながろうマップ」を活用した情報提供		○小児等の家族や関係機関に対して、マップの活用促進のための周知を図る。 ○麒麟会HPにも掲載する。 ○未掲載の関係機関に対して、継続してマップへの情報掲載の協力依頼を行う。 ○マップへの掲載情報の追加、修正を行う。 ・短期入所施設の空床状況を掲載する。	重症心身障害児を受け入れが可能な短期入所事業所の情報を県ホームページに掲載	事業所の協力を得られず、空床状況のリアルタイムでの提供は見送った。
	2 介護職等が行うことができる吸引等医療的ケアの実施事業所の実数把握と活用		○小児等の喀痰吸引等医療的ケアを実施している事業所を調査し、実施事業所をつなごう マップに掲載する。 ○どのような支援があれば医療的ケアが可能かを明らかにし、今後の支援につなげる。		実施を見送る。(第2回研究会で了承済み)
3 地域の小児等への在宅医療資源の拡充と専門機関との連携	1 訪問診療医等の拡充と連携	1 訪問診療の実践と医療機関との連携に対する理解の促進	○小児在宅医療に関わる訪問診療医・医療機関の医師(同じケースを診療している)でケースカンファレンスを実施する。(3か月に一度) ○上記カンファレンスに、訪問診療医と医療機関医師との連携に興味・関心のある医師会員・診療所医師の参加を促す。 ○カンファレンスを通じて、医師間の有効な連携のキーワードを抽出する。	参加者 医師 3 名 訪問看護師 10 名 保健師 2 名	医師会のシャトル通信にて、広報し開催したが関心を持つ医師が少ないことがわかった。 今まで、医師の考える双方での役割分担についての資料は存在したが、本カンファレンスではサービスを受けている養育者が日頃感じている医療機関、在宅医の役割の違い、期待する連携についてヒアリングを行い、カンファレンスを通じて、双方の医師がヒアリング内容を共有できた事は今後、家族が満足する連携のあり方の参考資料になり得ると考える
		2 小児等在宅医療に実績のある医師による実践報告会を通じたネットワークづくり	小児等在宅医療に実績のある医師による実践報告会 ※ <u>参加した医師の間で、小児等在宅医療との関わりや日常的に抱えている課題等について自由な意見交換を行った。</u>  協力機関:千葉県医師会・千葉県こども病院	8/28(木) 参加者 15 名 (座長) 大野医師 11/20(木) 参加者 6 名 (座長) 同上 【議論された内容】 県内における重症児後方支援としての医療機関の現状と課題 2/19 (木) 予定 (座長) 同上 【議論予定の内容】 東京ベイにおけるレスパイト受け入れの現状と課題 県内医療機関における小児在宅ケアシステムでの役割 次年度からの計画	重心施設所属医師、小児科病棟勤務医、訪問診療医が参加して会が開催できた点は期待していた立場の医師の参加となり、それぞれが顔の見える関係性、特に医師会所属の医師と病棟勤務医が顔の見える関係を構築できた点は評価に値する。しかし、会の目的であった超重症児、トランジットケースに対する具体的な策についての議論まで至らなかった点は今後の課題として残った。

小児等在宅医療連携拠点事業の平成26年度実施状況及び評価（No.2）

事業項目	事業内容		平成26年度 計画	実 績	評 価
3 地域の小児等への在宅医療資源の拡充と専門機関との連携	2 訪問看護師等の拡充と連携	1 重症児未経験看護師を対象とした同行訪問研修プログラム開発	○麒麟会で行う重症児訪問看護未経験看護師への同行訪問の実践を通じて、訪問看護STでの人材育成プログラムを開発する 協力機関:千葉大学大学院看護研究科地域看護システム管理学領域 吉本照子教授・杉田由加里准教授	11/6(木) 11/30(日) 公衆衛生学会・在宅ケア学会にてプログラムについての研究発表 年度末までに、ST 内での人材育成における管理者・指導者の役割をまとめる予定	各ステーション内で未経験看護師を育成するための指導者ステーション管理者の役割を提示することができる。
		2 新規に小児等訪問看護を行う訪問看護ステーションへの研修、支援	○現任看護師、新任看護師を対象に、それぞれ、集合研修、同行訪問研修を実施する。 ○千葉県看護協会新任看護師育成プログラムを受講し、小児訪問看護に関心のある新人看護師に対する同行訪問研修を実施する。(新規) 協力機関:千葉県看護協会・千葉リハビリテーションセンター	1/24(土)、25 日(日)集合研修  出前研修 2 ステーション 今後 柏市訪問看護協議会にて実施予定	
		3 経験のある訪問看護ステーションへのコンサルテーション	○地域の訪問看護ステーションからの依頼を受けて実施。 (講師) 医療法人社団麒麟会 統轄マネージャー谷口由紀子氏 等	3 ステーションへ実施 超重症児への看護 発達支援・家族支援に対する相談	支援を受けたステーション管理者から「困った時に相談できるステーションが県内に存在することはとても心強い」と評価を受けた。
		4 超重症児に対応できる訪問看護師の人材育成	○看護師、訪問看護に対する超重症児のアセスメント方法に関する研修を実施する。 協力機関:千葉県こども病院	1/17(土) こども病院にて開催予定	
		5 医療機関及び重心施設等に所属する看護師と訪問看護師とのネットワークづくり	○県内医療機関等に所属する看護師が、県内各地域の訪問看護STに出向き、同行訪問を通じて、訪問看護の制度・実際の理解や医療機関で行う退院支援の振り返りを行う。		実施を見送る。(第2回研究会で了承済み)
	3 支援と社会資源の創出	1 NICUを有する医療機関への退院促進支援	○NICUを有する医療機関からの依頼を受けて、退院支援についての助言や情報提供を行う。 (講師) 医療法人社団麒麟会 統轄マネージャー谷口由紀子氏 等	成田赤十字病院新生児科において支援を行った。	当該地域の行政と新生児科の橋渡しとして機能した。
		2 東葛南部での短期入所受け入れ先の創出と受け入れ人数の拡大	○東葛南部における短期入所事業所の運営等に対する支援の実施及び看護師の研修の実施 協力機関:千葉リハビリテーションセンター	今年度は医療機関の体制より見送り	
		3 千葉市内における短期入所先の創出と運営等の支援	○千葉市において、新規に開設する短期入所事業所へのコンサルテーション及び看護師の研修の実施(千葉市単独事業との協働事業) 協力機関:千葉リハビリテーションセンター	11/25(火) 千葉市内にて開催 参加法人 7 箇所 40歳以上の障害者に対する支援から開始予定、千葉リハビリテーションへ紹介	千葉市の取り組みは、低予算かつ確実に支援機関を増やす取り組みとなっており、受け入れのための研修を千葉リハビリテーションセンターに依頼できたことはよかった。このような取り組みを促進するためには、やはりコーディネーターが必要であると感じた。
4 地域の福祉・行政関係者との連携促進	1 相談支援専門員・行政職員・保健師・訪問看護師・介護福祉士等による協働支援のあり方の検討	1 一般相談に対する保健師の役割遂行支援 ○県や市町村の保健センター等の保健師を対象にワールドカフェを開催し、地域おける多職種の役割の理解を深め、顔の見える関係を築く。		3/5(木) 教育会館にて開催予定	
		2 多職種による協働支援のあり方を学ぶ事例検討会を開催する。 残り7つの医療圏ごとに実施する。		9/20(土)鎌ヶ谷市 5 名 9/27(土)千葉市 21 名 10/4(土)鴨川市 5 名 10/11(土)市川市 20 名 11/22(水)木更津市 20 名	残り2圏域については、市原市、四街道市において、3月を目途に開催予定

小児等在宅医療連携拠点事業の平成26年度実施状況及び評価（No.3）

事業項目	事業内容	平成26年度 計画	実 績	評 価
4 地域の福祉・行政関係者との連携促進	2 医療と福祉の連携促進の観点からの相談支援専門員の育成支援	1 医療的ケアを要する障害児のサービス等利用計画作成に携わる相談支援専門員用のガイドラインの普及定着を図る		
		2 相談支援専門員小児在宅支援リーダー育成研修 ○県内の各医療圏域(県内9地域)に1～2名を対象に、医療的ケアのある子どもの相談支援ガイドラインを実践でき、かつ未経験の相談支援専門員の支援を行うことができる人材を育成する	2/1(日)、8(日) 募集人員 20名	
		3 相談支援専門員小児在宅支援初心者向け育成研修 ○児童に対する相談支援に興味関心のある相談支援研修参加者に対し、重症児に対する相談支援の必要性や意義・目的に対する理解を促す	12/2(火)開催 参加者 45名 12/8(月)開催 参加者 36名	研修満足度も高く、次年度も継続して欲しいという要望もアンケートに多数記載されていた。 研修内容については、教育に対する講義内容は要検討であることがアンケート結果より推察された。
	3 相談支援専門員と医療機関のソーシャルワーカーとのネットワークの構築	○医療機関に心理的距離のある相談支援専門員と医療機関のソーシャルワーカー(MSW)の顔の見える関係を構築する。	10/31(金)開催 参加医療機関 6箇所 相談支援事業所 33箇所 相談支援専門員 50名	今年度初の試みであり、医療機関の参加は任意として事業を開催したため、参加医療機関数が伸びなかった。また、医療的ケアのある子供に対する支援とは遠い相談支援事業所も医療機関とのつながりを作ることを目的に参加しており、会の趣旨と異なった参加者もいた。しかし、大きな視野で捉えると、様々な領域の障害児に関わる相談支援専門員も医療機関との連携を希望していることがわかり、医療的ケアのある子どものみを対象とした会でなく、障害児にまつわる医療連携の事業として今後位置付け継続することも可能であると考える。 また、今年度は相談支援専門員向けの初回事業として開催したが、他の事業と開催する優先順序を検討し、開催することも今後有用であると考え
	4 喀痰吸引等医療的ケアの実施における訪問看護師・介護福祉士等の連携	○市町村との協働で行う、喀痰吸引等医療的ケアを実施できる人材育成協力機関 千葉市・柏市・木更津市・成田市・夷隅長生ひなた中核地域生活支援センター等	1/10 現在 91名基本研修終了(実地研修申請数 41件成人も含む) 2～3月 市原市で開催予定	準備、事業説明、研修の実施、研修にまつわる事務手続き、当該地域のニーズに合わせた研修時間の設定と事業終了までに多大な労力を有する事業であった。しかし、事業パートナーである自治体等が受講生をケアを必要としている障害児者にコーディネートする役割を早くも遂行しており、子どもと家族に対する直接的支援に結びつく事業となった。 本事業の成功の鍵は、自治体とのパートナーシップにおいて実施したことと考える。
	5 重症児に対する介護福祉士等への人材育成支援	○重症児への生活支援・対応方法の基礎的知識の研修の実施 協力機関:千葉リハビリテーションセンター	1/31(土、2/1(日)研修実施	
	6 地域の障害福祉行政に携わる職員等への啓発	○県内市町村と拠点事業との地域福祉検討会 3か月に一度、各地域における医療的ケアのある子どもの在宅支援の現状と取組について情報共有を行い、市町村と共に各地域の地域福祉を考える。	8/1(金)、11/27(木)、2/5(木)計3回 10市町村参加予定	参加市町村からは、今までにない取り組みであり、他市の状況も知ることができかつ日頃の業務で困っていることに対する他市の取り組みについても情報を得ることが出来るため、有用な事業であったとアンケート結果より評価できた
	7 小規模な児童デイサービスや福祉施設で、より安全な看護を提供するための支援	○児童デイサービスや福祉施設からの依頼を受けて実施。	今年度依頼なし	
5 患者・家族の個別支援	1 電話相談や訪問支援等による個別支援や定期的なフォローアップ	○障害児の家族や関係機関等からの依頼を受けて実施。 ○(支援者)医療法人社団麒麟会 理事(社会福祉士)吉橋 准子氏 等	都市部相談支援専門員から5例相談有り 継続して相談員の支援を実施	
	2 多職種協働ケア担当者会議開催の働きかけ			



小児等在宅医療連携拠点事業の平成26年度実施状況及び評価（No.4）

事業項目	事業内容	平成26年度 計画	実 績	評 価
6 患者・家族や学校関係者等への理解促進・負担軽減	1 医療依存度の高い子どもや家族が社会資源を活用し、在宅生活を営めるよう支援するためのサービス活用パンフレットの配付	1 「子どもの在宅療養Q&A～安心できる療養生活のために～」の増刷・配布	県ホームページで公開	
		2 患者・家族や学校関係者等への理解促進・負担軽減のためのシンポジウム開催	1/18(日)開催	
	2 医療依存度の高い子どもを支えるための特別支援学校との連携	○ 特別支援学校の教員との意見交換会 （講師） 医療法人社団麒麟会 統轄マネージャー 谷口由紀子氏 毎年8月に特別支援学校の教員を対象にして実施される医療的ケアの勉強会（卒後移行支援に関するもの）への参加	8/30(土)参加 参加者数約 50 名	
		○ 特別支援学校の校長会及び教頭会議での事業説明・意見交換		